

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4098400015		
法人名	有限会社 M&Y		
事業所名	グループホーム銀杏の木	ユニット名	かえでの棟
所在地	福岡県八女郡広川町大字長延630番地2		
自己評価作成日	平成25年 10月 18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域のサロン等への参加 散歩時のごみ拾い実施 外出支援

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成25年11月14日	評価結果確定日	平成26年2月17日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) ○	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) ○
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) ○	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) ○
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) ○	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) ○	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) ○	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) ○	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) ○		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時と全体会議にて唱和を行い、職場内研修で意味、理解を深め共有を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時のゴミ拾いは、オープン時より実施。地域のサロンへは、ほぼ毎回参加させて頂き、お祭り、運動会、文化祭等へも出向くようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政が中心となった、認知症予防の為の認知症研究会のメンバーにスタッフが入っており、事業化に向けての協力を行っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて状況報告を行い、質疑応答や意見交換を行いながら情報収集、サービス向上に活かすようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の担当者が運営推進会議の委員でもあり相談や情報交換を行い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については研修にて理解、認識し、ケアの実践に取り組んでいる。また委員会も定期的開催し、さらに理解を深め周知するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内外部の研修に参加。理解を深め周知し、虐待防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会保険労務士による研修会を実施し、制度についての理解に努めている。 かえで棟では、制度利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定時は、家族に説明を行い納得してもらっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族懇談会を実施しており、少人数の参加ではあるが、意見要望等もあり運営に反映するよう努めている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議にて意見交換、提案の場を設けている。 また、普段も意見提案を自由にいえる環境作りを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回、全職員に目標、成果、意見、要望等について自己評価を実施している。 個人面談にて意見、要望、提案の収集を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、性別、年齢、経験に関係なく「やる気」を重視している。 現在、働いている職員については、ストレスを溜めない様にして、生き生きと働ける様配慮している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社会保険労務士による研修を行い、各職員の意識を高めるようにしている。 日常業務を通し、言葉遣い、接遇面において、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、積極的に参加するようにしている。研修参加より全体会議において発表してもらい、職員全員で周知するようにしている。職場内研修も毎月行って認識を深めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八女、筑後地区のグループホーム部会には必ず参加。交流の機会を増やし情報交換を行い、サービスの質を向上させる取り組みを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面接にて、不安や要望等を開き、施設見学をしていただき納得した上で、意志の確認を行い、サービス導入につなげている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望等に耳を傾け、十分な説明を行い、家族との関係づくりが出来るよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入で本人と家族のニーズを見極め、支援を行っている。 自施設で対応できないケースでも相談に応じ、紹介等を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個々の能力に応じ、可能な限り役割を持ってもらい共に支え合っ、共同生活が送れる様に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族で出来ることは協力してもらい、絆を大切にしながら、共に本人を支えて行ける関係作りを行っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会、外出、外泊が出来るようにし、家族、友人、知人との馴染みの関係が続けて行いけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者同士が交流を深め、支え合える環境 作りを行っている。トラブルを未然に防ぎ、孤 立しないようにし、穏やかな状況を保てるよう 努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、本人、家族の経過をフォロー している。 亡くなられた方への初盆のお参りも実施して いる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入居者との会話の中から、希望や意向を引 き出し、家族からも情報を収集するよう努め ている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居者との会話や家族からの情報で、暮らし 方や生活歴等の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、状態状況を観察し、朝 の申し送り、ケア記録、申し送りノートを活用 し、現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、そ れぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した 介護計画を作成している	3か月毎にカンファレンスを行い、意見やアイ デアを出し合い、現状に応じた見直しを随時 行っている。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、介護計画と連動したものになっ ており、ケアの実践や様子等を記入し、職員 間で情報の共有が出来るものとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対しては、可能な限り対応を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等は、参加できる人には極力参加してもらうように努めている。 月に1回近所の公民館で行われている、いきいきサロンへの参加を実施している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じたかかりつけ医を尊重している。 定期受診についても、基本的には家族対応であるが、困難な場合は、職員が行う等、対応している。さらに協力医の往診が、適時受けられる体制を築いている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化等はすぐに看護師に報告し、支持を仰ぎ適切な受診や看護を受けられるように努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報交換を行い、利用者が安心して治療できるように支援を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応、終末期ケアの指針の説明を行い、看取り介護についての同意を得ている。 医師と連携を図りながら、努力する意向を全職員で共有している。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の方法は、掲示板にて掲示しており、緊急時のマニュアルは全職員が分かる場所に常時設置している。 研修を受講して実践力を身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っており、消防署の立会いのもと、日中、夜間想定にて訓練を実施しており、AED講習会なども実施している。運営推進会議の委員、近隣の方への参加も依頼している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録物、個人情報の管理は、保管場所を決めて適切に保管している 又、普段からの言葉遣いや言葉掛けには気を付けて、一人ひとりの人格の尊重を念頭におき接するように努めている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で選んだり決定する機会を作るよう努めている。 本人の喜びやしたい事等を聞き取りし、その機会を作り実践に努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを大切に支援を行っている。 利用者の希望や要望があれば、出来る限りの支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師にホームまで来てもらい、散髪を行っている。 身だしなみや化粧等に関しては、基本的に本人の好きなようにしてもらっており、介助が必要な方も本人の意向を聞いて支援を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士作成の献立をもとに、餅つきやソーメン流しなど季節に応じた食事や敬老会等の行事の際は、特別なメニューを提供している。利用者も準備等で、野菜の皮むきなど出来る範囲で手伝ってもらっている。 スタッフも利用者と一緒に会話を楽しんで同じものを食している。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの摂れるメニューを作成しており、利用者に合わせた食事形態で提供している。 水分量の記録も行っており、水分が取れない利用者に対しては、スポーツドリンク等を提供したりと補っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い実施している。介助が必要な方は職員が丁寧に行っている。週に一度、歯ブラシ、コップ等の消毒を行い清潔にしている。又、決まった曜日に入れ歯洗浄剤を使い、洗浄される方もおられる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄のタイミングを把握し、声掛けや本人の訴え等にて対応し、トイレで排泄が出来る様、支援を行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行い、水分摂取の少ない方には、声掛けにて水分を多く摂ってもらい、運動、腹部マッサージ、服薬にて対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調を考慮しながら支援している。入浴拒否がある方は、声掛けのタイミングを図りながら入浴して頂ける様支援している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にて毎日の習慣や、体調によって休息を取っていただいている。夜間は、安心してぐっすり休んで頂ける様支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとり一人が使用されている薬の目的、副作用、用法、用量を理解し、服薬の支援と症状の変化等状態把握に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間を通して数多くの行事を計画し、気分転換をしていただいている。又、個別にて一人一人の生活歴や力を活かし、洗濯畳等の手伝いや、歌やパズル等楽しみ事を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ひとり一人の希望に添って、家族との外出を楽しまれる方や散歩へ出掛けたり外のベンチで風にあたられる方もいらっしゃる。花見見学、ドライブ、地域の祭りや、いきいきサロンなど希望者と一緒に出掛けている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どどの利用者は、職員や家族が行っている。少な目のお金を自分で管理されている方は、ジュースの自動販売機を使用したり、職員にお金を預け必要なものを購入されている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話をかける事を希望されたら職員が対応し、取次を行っている。 又、家族より電話がかかってきた場合も取次を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、ひとり一人が安心して過ごせるよう工夫している。 観葉植物を置いたり、ボード等には季節感を施している。 臭いが気になる場所では、空気の入替を細目に行っている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事等の時は気の合った同士が席を共にされ、会話が弾んでいる。 その他の時間は、ソファをテレビの前に3か所置き、自由に使用され誰とでも会話できるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んでいただき、配置も安心して使ってもらえる様に、本人の希望通りにしている。 カレンダーや写真などを飾られている方もいらっしゃる。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の出入り口には、表札を大きく付けており、分かりやすく工夫している。 トイレの前には照明をつけ安全に出入りが出来るようにし、あらゆる場所に手すりを設置している。		